

【研究シリーズ】

遊休不動産の活用と都市への影響に関する研究



Keyword

建築論、都市論、遊休不動産活用、コンパクトシティ、立地適正化、地域観光

連絡先

建築土木工学科 教授 下川 勇

電話 0776-29-2463

E-mail shimokawa@fukui-ut.ac.jp

現在、主に次の2つに携わる。(1) 市街地再開発及び一般居住エリアにおける「住むこと」を中心としたエリア再生手法の研究。(2) 福井工業大学ブランディング事業における地域観光（ツーリズム）に関する研究。

machi YOKU

越前市若竹町のエリア再生を
シンボル化したロゴ

空き施設や空き家・空地等の遊休不動産の活用が都市の課題になっています。都市を「人が住む場所」として捉えた場合、遊休不動産の存在は都市を「人が住み難い場所」へと変化させてしまいます。この研究は、IUJターンが代表する移住施策に関連するとともに、自治体内での住まいの移動（近距離移住）を効果的に達成する方法を検証する目的で行われています。

事例1：越前市若竹町を生き生きとしたエリアにする取り組み machi YOKU

越前市若竹町は昭和中期まで打ち刃物の職人町でした。現在は空き家や空地も目立ち、景観も劣化しています。行政区として一般居住エリアに定められる若竹町を「住める場所」として再生するために、「現代の職人町」をテーマとした遊休不動産の活用計画と修景計画を作成します。

事例2：南越前町瀬戸集落の地域資源を活用したツーリズムの実践

超高齢化社会を背景として瀬戸集落は過疎に向かっています。集落再生の一手法として交流人口から定住人口を見出す観光戦略の立案・実践を行っています。集落で稀に見られる青い雪をシンボルとして「瀬戸ブルー」と概念化し、瀬戸＝青のイメージ形成に取り組んでいます。



地元説明会 (machi YOKU)



景観調査 (machi YOKU)



観光資源調査 (瀬戸)

《 共同研究の相手となる業界等 》

国・地方自治体、学術・開発研究機関、建設・不動産業、観光関連業

《 参考文献 》

machi YOKU HP: <https://www.machiyoku.info>

福井工業大学ブランディング事業 FUKUI PHOENIX PROJECT HP: <http://www.fukui-ut.ac.jp/phoenix/>